

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年(科)	1学年
使用教科書	数研出版『現代の国語』						
副教材等	第一学習社『新版7訂新訂総合国語便覧イラストル版』 尚文出版『大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000』						

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。
- ② 文章を的確に理解することにより、自分の考えを深めることを目指します。
- ③ 自身の考えを適切かつ効果的に表現することで、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 学習到達度確認問題 ・ 課題考査 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

内容のまとめりに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・ およそ週1回のペースで学習到達度確認問題があります。出題範囲は、学年だよりの週末課題号で指示します。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。その課題を出題範囲として長期休業後に課題考査があります。
- ・ 単元によって課題としてレポートや作品などを提出してもらいます。

6 学習アドバイス

「現代の国語」は、生涯を通じ、実社会・実生活で直接的に役立つ国語の能力を育成する科目です。説明文や評論文にかぎらず、パンフレットや企画書といった実用的な文章なども扱います。国語は、学習の基盤となる「言語能力」育成の要となる教科であり、「現代の国語」はその土台となる科目です。日々の勉強では、KJサイクル「予習→授業→復習→確認」のサイクルを構築しましょう。また、他教科の学びや実生活においても「現代の国語」での学びを生かせるよう意識して取り組むことで、人生を支える骨太な国語力を身に付けましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	「読む」と「書く」 社会と文化	「C読むこと」	書けない日々	文章中の表現について、文章の論理の展開を踏まえて説明する。	2	ワークシートの評価 定期考査
		「C読むこと」	水の東西	文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。	3	ワークシートの評価 定期考査
		「A話すこと・聞くこと」	文化	自文化とグローバリゼーションという観点から、実社会の中から適切な話題を決め、話し合う。	1	話し合いの相互評価
5	新しい視点	「A話すこと・聞くこと」	「わらしべ長者」の経済学	筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。	3	ワークシートの評価 意見交換の相互評価 定期考査
		「A話すこと・聞くこと」	情報とメディア	実社会の中から話題を決め、それについてマス・メディアから発信された情報と個人から発信された情報を比較し、両者の違いについて話し合う。	1	話し合いの相互評価
6	ことばの働き	「C読むこと」	知識のシステムをつくる	文化によって分節の仕方が異なるものを挙げ、その背景にある文化の違いについて、自分の考えを説明する。	3	ワークシートの評価 定期考査
		「A話すこと・聞くこと」	どこにも蝶などいない	文化によって分節の仕方が異なるものを挙げ、その背景にある文化の違いについて、自分の考えを説明する。	1	説明の相互評価
	環境と科学	「C読むこと」	科学コミュニケーション	筆者の考え方に対する自分の意見を、具体例とともに説明する。	3	ワークシートの評価 定期考査
		「A話すこと・聞くこと」	環境問題のこれから	環境問題の国際的な取り決めや日本の法律・条例を調べ発表する。	2	発表の相互評価及び自己評価
7	人間と時間	「C読むこと」	時間と自由の関係について	特定のテーマについての本を読み感想文を書いた上で、その内容を発表する。	4	ワークシートの評価 定期考査
		「A話すこと・聞くこと」	近代と時間の関係	時間に関することわざを選び、その内容が現代社会でもあてはまるかを検討した上で、自分の考えを根拠とともに述べる。	2	発表の相互評価
8 9	認識の枠組み	「C読むこと」	他者を理解するということ	文章中の表現について、文章の論理の展開を捉えて説明する。	3	ワークシートの評価 定期考査

		「A 話すこと・聞くこと」	自己と他者の理解とは	他者との相互理解のためにできることについて、具体的な事例を挙げて話し合い、発表する。	2	発表の相互評価
	問題を提起する	「B 書くこと」	感情暴走社会の由来	文章内容を踏まえて自分で問題を提起し、表現を工夫して文章を書く。	3	ワークシートの評価 定期考査
10	対比する	「B 書くこと」	デジタルメディア時代の複製	筆者の考えに対する自分の意見を、構成を工夫して文章にまとめる。	3	ワークシートの評価 定期考査
	賛否を述べる	「A 話すこと・聞くこと」	命は誰のものなのか	意見と根拠を明確にして、一貫性のある文章を書く。	2	ワークシートの評価 定期考査
11	解釈を述べる	「B 書くこと」	事実なのか考えなのか	言葉や表現が読み手に与える印象を考えながら、条件に沿って文章を書く。	4	ワークシートの評価 定期考査
	具体例を示す	「B 書くこと」	動的平衡の回復	文章中の表現の具体例を探し、その内容を文章にまとめる。	4	ワークシートの評価 定期考査
12 1	意見を述べる	「B 書くこと」	無痛化する社会のゆくえ	与えられたテーマについて、二つの文章をもとに考察し、適切に引用しながら自分の意見を文章にまとめる。	4	ワークシートの評価 定期考査
	関連づける	「B 書くこと」	絵を前に思いをめぐらす	自分の考えが的確に伝わるように、適切に引用するなど、説明の仕方を考えて書く。	4	ワークシートの評価 定期考査
		「A 話すこと・聞くこと」	芸術の価値とは	芸術作品を選び、自分の解釈を発表する。	2	発表の相互評価および自己評価
2	実用の文章	「A 話すこと・聞くこと」	課題を発見し解決策を発表する	集めた情報と検討内容を資料にまとめ、発表する。	2	発表の相互評価および自己評価
	話し言葉の技術	「A 話すこと・聞くこと」	情報の聞き取り方 説得力のある話し方	大意を聞き取る（スキミング）、具体的な情報を聞き取る（スキヤニング）を練習する。 声・視線・構成を工夫してスピーチを練習する。	2	ワークシートの評価 スピーチの相互評価 および自己評価
3	書き言葉の技術	「B 書くこと」	文章構造を理解する 要約する 比較する 論証する 意見文を書く	文と文、段落と段落の関係を知る。 要約の方法を学ぶ。 比較によって仮説を立てる。 類例によって新しい視点を得る。 論証における根拠の重要性を理解する。 論証の方法を確認する。 引用や推敲のしかたについて理解し、具体的に説得力のある文章で意見を述べる。	4	ワークシートの評価 意見文の評価

計 64 時間 (55 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20時間	B「書くこと」 26時間	C「読むこと」 18時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3	学年(科)	1学年
使用教科書	数研出版『言語文化』						
副教材等	ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典(改訂版)』、第一学習社『改訂三版完全マスター古典文法』、第一学習社『新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、桐原書店『漢文必携五訂版』、桐原書店『漢文必携チェックノート基本編五訂版』、尚文出版『新版理解を深める核心古文単語351』、第一学習社『新版七訂新訂総合国語便覧インストール版』						

1 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。 ・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「読むこと」や「書くこと」を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。また、進んで読書に親しみ、我が国固有の文化や表現を理解しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「読むこと」や「書くこと」を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。また、進んで読書に親しみ、我が国固有の文化や表現を理解しようとしている。

評価方法	以上の観点を踏まえ、	以上の観点を踏まえ、	以上の観点を踏まえ、
	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題、各種考査などの分析 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ワークシート、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題、各種考査などの分析 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ノート、ワークシート、レポート、提出物などの内容の確認や記述の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題、各種考査などの分析 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ノート、ワークシート、レポート、提出物などの内容の確認や記述の分析
	などから、評価します。	などから、評価します。	などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- 週末課題を課し、その内容をもとに毎週1回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年だよりで指示します。
- 長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。
- 単元によって課題として感想シートやレポート、作品の提出などを課します。

6 学習アドバイス

「言語文化」は、上代から近・現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目です。小説や随筆、韻文、古文、漢文、伝統文化や古典に関する現代の文章などを扱います。学習ではまず何よりも古典の世界に親しもうとする姿勢が大切です。加えて、毎日コツコツと学習に取り組む習慣を身に付けましょう。特に古典の学習では、十分な知識の習得が、その世界を楽しむためにも重要になります。「知れば知るほど面白い」そう思えてきた時には、自然と学習も軌道に乗っているはずです。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	説話	C「読むこと」【古典】	『宇治拾遺物語』	<ul style="list-style-type: none"> 読解に必要な文語のきまりや表現を理解する。 文章の内容や構成を、文語のきまりや叙述を基に的確に捉える。 	8	ワークシート(記述の点検) ノート(記述の確認)
5	近代小説(一)	C「読むこと」【近代以降の文章】 B「書くこと」	「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 結末部の改稿による作品の印象の変化をまとめ、グループで話し合う。 「羅生門」と『今昔物語集』の差異を比較しレポートにまとめる。 	7 2	ノート記述の確認 発表の様子(行動の確認) レポート(記述の分析)
6	入門 随筆(一) *中間考査	C「読むこと」【古典】 C「読むこと」【古典】	「入門一」「入門二」 『徒然草』	<ul style="list-style-type: none"> 読解に必要な漢文のきまりや表現を理解する。 読解に必要な文語のきまりや表現を理解する。 作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 	2 5	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の点検) ノート(記述の確認) 考査の分析
7	故事	C「読むこと」【古典】 B「書くこと」	「漁夫の利」・「矛盾」・「狐借虎威」	<ul style="list-style-type: none"> 読解に必要な作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。 故事成語の用例の調査を行い、レポートを作成する。 	5 1	ノート(記述の点検) ノート(記述の確認) レポート(記述の分析)
8	戦争小説 物語 *期末考査	C「読むこと」【近代以降の文章】 B「書くこと」 C「読むこと」【古典】	「沖縄の手記から」 『竹取物語』	<ul style="list-style-type: none"> 作品の成立背景を踏まえて内容を理解する。 近現代に書かれた戦争文学を積極的に調査し、学習課題にそって発表する。また、その成果をレポートにまとめる。 作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて内容を解釈する。 	5 1 4	ノート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認) レポート(記述の分析) ノート(記述の確認) 考査の分析

9	歌物語	C「読むこと」【古典】	『伊勢物語』 『大和物語』	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の韻文の表現について理解する。 ・文章の種類や成立した背景を踏まえて、内容や構成、表現の特色などを的確に捉える。 ・他の作品と比較しながら、批評文を作成する。 	6	ノート（記述の点検） ノート（記述の確認）
		B「書くこと」			2	レポート（記述の分析）
10	近代小説（二） 史伝	C「読むこと」【近代以降の文章】	『城の崎にて』	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品内容を踏まえて、自分の考えを学習課題に照らし合わせてまとめる。 	6	ノート（記述の確認）
		B「書くこと」 C「読むこと」【古典】	『鶏口牛後』	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。 	1 4	レポート（記述の分析） ノート（記述の点検） ノート（記述の確認）
11	文章 随筆（二） *中間 考査	C「読むこと」【古典】	『雑説』	<ul style="list-style-type: none"> ・読解に必要な作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 	3	ノート（記述の点検）
		C「読むこと」【古典】	『枕草子』	<ul style="list-style-type: none"> ・読解に必要な文語のきまりや表現、作品の時代的文化的背景を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 	6	ノート（記述の点検） ノート（記述の確認） 考査の分析
12	日記文学 漢詩	C「読むこと」【古典】	『土佐日記』	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 	3	ノート（記述の確認）
		C「読むこと」【古典】	『中国の詩』・『日本の詩』	<ul style="list-style-type: none"> ・解釈に必要な漢詩のきまりや表現を理解する。 ・作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。 	4	ノート（記述の点検） ノート（記述の確認）
1	近代小説（三）	C「読むこと」【近代以降の文章】	『山月記』	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の設定や場面や人物によって生じる効果、翻案の方法など、自分で課題を設定しレポートを作成する。 	5	ノート（記述の確認）
		B「書くこと」			2	レポート（記述の分析）
2	和歌 *期末 考査	C「読むこと」【古典】	『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』	<ul style="list-style-type: none"> ・読解に必要な古典特有の韻文の表現について理解する。 ・文章の種類や成立した背景を踏まえて、内容や表現の特色などを的確に捉える。 	5	ノート（記述の点検） ノート（記述の確認）
		B「書くこと」	『英語で読む百人一首』	<ul style="list-style-type: none"> ・英訳された和歌を読解し、日本古典の魅力や翻訳の工夫についてレポートを作成する。 	2	レポート（記述の分析） 考査の分析
3	詩歌	C「読むこと」【近代以降の文章】	「サーカス」・「I was born」	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に必要な語句の量を増やし、その理解を深めるとともに文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 	5	ノート（記述の点検） ノート（記述の確認）
		B「書くこと」	・短歌・俳句	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな作品を選び、鑑賞文を作成する。 ・俳句あるいは短歌を作成し、発表する。 	2	鑑賞文（記述の分析） 発表の様子（行動の確認）

計96時間（55分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 13時間	C「読むこと」【古典】 55時間	C「読むこと」【近代以降の文章】 28時間
-----------------	-----------------	---------------------	--------------------------

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2単位	学年(科)	1学年
使用教科書	帝国書院（高等学校 新地理総合） 帝国書院（新詳高等地図）						
副教材等	啓隆社（23 新地理要点ノート） とうほう（新編地理資料2023）						

1 学習目標

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、世界各地で見られる地球的環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する能力を育てる。

2 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。
- ③各地球規模の課題を考察し学ぶことで、諸課題を関連付けて大観し理解する能力を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりしようとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し諸課題を関連付けて大観しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりしようとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し諸課題を関連付けて大観しようとしている。
評価方法	以上の観点から ・ペーパーテストの分析 ・地形図やグラフ、統計資料の分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点から ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、グループワークでの取り組みや発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点から ・授業中の発言、グループワークでの取り組みや発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週、課題があります。各範囲の課題を提出期限に必ず提出すること。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。（ワーク、模試の過去問題など）

6 学習アドバイス

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習する。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど、模試から学べることは実に多い。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	地図と地理情報システム		地球上の位置と時差 結び付きを深める現代世界	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地図やその種類について理解する。 地形図の仕組みや読図の仕方を理解する。 地理情報システム（GIS）のしくみやこれを支える技術、活用場面について理解する。 	5	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
5	グローバル化する世界 生活文化の多様性と国際理解 世界の地形と人々の生活		国際理解と国際協力 世界の地形と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> 地形の分布や成因、基本的な形成や仕組みについて理解する。 	5	前期中間テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
6	世界の気候と人々の生活		気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活 世界の植生と気候区分	<ul style="list-style-type: none"> 世界の気候について理解する。 日本の自然の特徴や災害について理解する。 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
7 8	太平洋の島々での生活 モンスーン地域での生活 世界の言語・宗教 イスラームと人々の生活 ヒンドゥー教と人々の生活		各所地域の 人々の生活文化 言語・宗教と 人々の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	7	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
9	ラテンアメリカの生活文化 アフリカの生活と文化 ロシアの生活と文化		各所地域の 人々の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	6	前期期末テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

10	アメリカの生活と文化 東アジアの生活と文化 ヨーロッパの生活と文化		各所地域の 人々の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 ・世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	7	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
11	地球環境問題 人口問題		地球的課題と 国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布や動態、転換について理解する。 ・先進国と発展途上国の人口問題について事例をもとに考察し、理解する。 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
12	都市・居住問題 自然環境と防災		地域で異なる 都市・住居問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・村落や都市の発達や地域的な違いについて理解する。 ・都市・居住問題について事例をもとに考察し、理解する。 ・地域で異なる気象災害、都市化による水害の変化について理解しており、地理的技能を身に付けている。 	6	後期中間テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
1	日本の自然環境 地震・津波と防災		地震・津波による災害 被災地の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地形・気候と災害の関りに関連付けて理解する。 ・火山・地震の被害について理解しており、地理的技能を身に付けている。 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
2	気象災害と防災		気象災害への 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で異なる気象災害を理解しており地理的技能を身に付けている。 	6	後期期末テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
3	生活圏の調査と 地域の展望		地理的な課題 と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な課題の解決に向けての探究, 地域調査の「問い」の設定について理解している。 ・現地調査の方法について理解している。 ・調査結果の分析と仮説の検証, 調査結果のまとめ・発表の方法について理解している。 	4	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

計 64 時間 (55 分授業)

教科	地理 歴史	科目	歴史総合	単位数	2単位	学年（科）	1学年
使用教科書		山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』					
副教材等		第一学習社 ダイアログ歴史総合					

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 指導の重点

- ①日本と世界の歴史について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求・解決できる力を養うことを目指します。
- ②学習到達度確認テストで歴史事象に関する基礎知識の定着を図ります。また、授業を通して習得した歴史的思考力、判断力を問題演習でさらに深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題は、2日前までには指示します。長期休業中の課題は、別途指示します。

6 学習アドバイス

- ・歴史総合は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ・新聞やニュースは歴史総合ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。

7 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	結びつく世界	6 近代化と 私たち	・アジア諸地 域の繁栄と日 本	アジアの繁栄とヨーロッパに おける主権国家の形成、海外 進出について概観する。	a b	学習到達度確 認テスト、作 業プリント
5	近代ヨーロッパ・ アメリカ世界の 成立	6 近代化と 私たち	・ヨーロッパ 経済の動向と 産業革命	産業革命やアメリカ独立戦 争・フランス革命など19世紀 の欧米について理解する。	a b	学習到達度確 認テスト、作 業プリント
6	明治維新と日本 の立憲体制 ※前期中間考査	6 近代化と 私たち	・明治維新と 諸改革	日本の明治維新と明治初期の 対外関係、自由民権運動と立 憲制について理解する。	a b c	前期中間考 査、学習到達 度確認テスト
7	帝国主義の展開 とアジア	6 近代化と 私たち	・条約改正と 日清戦争 ・帝国主義と 列強の展開	条約改正と日清戦争、日本の 産業革命と教育について理解 し、帝国主義と世界分割につ いて考察する。	a c	学習到達度確 認テスト、作 業プリント
8	第一次世界大戦 と大衆社会	5 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち	・第一次世界 大戦とロシア 革命 ・国際平和と 安全保障	第一次世界大戦とロシア革命 とその後の国際平和と安全保 障について理解する。	a b	学習到達度確 認テスト、作 業プリント
9	第一次世界大戦 と大衆社会 ※前期期末考査	6 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち	・アジア・アフ リカ地域の民 族運動	アジア・アフリカの民族運動 と大衆消費社会と大衆の政治 参加について概観する。	a b	前期期末考 査、学習到達 度確認テスト
10	経済危機と第二 次世界大戦	6 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち	・世界恐慌の 発生と各国の 対応 ・ファシズム の台頭	世界恐慌とファシズムの台頭 を背景とした満州事変と日中 戦争、それに続く太平洋戦争 を含めた第二次世界大戦につ いて理解する。	a b c	学習到達度確 認テスト、作 業プリント
11	戦後の国際秩序 と日本の改革	6 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち	・新たな国際 秩序と冷戦の 始まり ・アジア諸地 域の独立	占領政策と日本の民主化、冷 戦の始まりによる占領政策の 転換を理解し、アジア諸国の 独立も概観する。	a b	学習到達度確 認テスト、作 業プリント

12	冷戦と世界経済 ※後期中間考査	5 グローバル化と私たち	・集団防衛体制と核開発 ・第三世界の連携と試練	米ソ両大国の平和共存と西ヨーロッパの経済復興、第三世界との連携を理解する。	a b	後期中間考査、学習到達度確認テスト
1	冷戦と世界経済	5 グローバル化と私たち	・日本の高度経済成長 ・冷戦構造のゆらぎ	日本の高度経済成長と世界経済の転換、核戦争の恐怖から軍縮への過程を考察する。	a b c	学習到達度確認テスト、作業プリント
2	グローバル化する世界 ※後期中間考査	5 グローバル化と私たち	・冷戦の終結と国際情勢 ・地域紛争の激化	冷戦の終結後の国際情勢、ソ連の崩壊に続く地域紛争の激化について理解する。	a b	後期期末考査、学習到達度確認テスト
3	現代の課題 主題学習	5 グローバル化と私たち	・現代世界の諸課題 ・現代日本の諸課題	現代における世界と日本の諸課題について考察する。学習内容をもとに、自分で決めたテーマについて考えをまとめる。	a c	学習到達度確認テスト、作業プリント

計 64 時間 (55 分授業)

教科	数学	科目	数学I	単位数	3単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学I』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学I+A』 啓林館『Focus Gold Smart 数学I+A』						

1 学習目標

「数と式」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」の4単元に取り組む中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

「数と式」では、文字を使った式における基本的な計算技能を身に付けられるようにする。

「2次関数」では、関数の式とグラフを関連づけて考察する力を身に付けられるようにする。

「図形と計量」では、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けられるようにする。

「データの分析」では、社会に事象や問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、それらを批判的に考察、判断し解決できる力を身に付ける。

数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造的基礎を養う。

2 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得を目指します。
- ③学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動するとともに、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題や週末課題の提出 ・ 自主的に取り組んだ問題の提出 と主体的な取組態度などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

日々課題
週末課題

6 学習アドバイス

- ①数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。
- ②授業中に理解できないところは、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ③応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会で内容の定着を徹底します。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	数と式		・式の計算 ・実数	・多項式の四則演算 ・実数・根号	26	学習到達度確認問題
5	【GW課題考査】		・1次不等式	・1次不等式 ・絶対値		日々課題 週末課題 考査
6	2次関数		・2次関数とグラフ	・関数とグラフ・2次関数のグラフ	28	学習到達度確認問題
7	【前期中間考査】		・2次関数の値の変化	・最大・最小		日々課題 週末課題 考査
8			・2次関数の決定 ・2次方程式と2次不等式	・2次関数の決定 ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式		
9	【前期期末考査】				26	学習到達度確認問題
10	三角比		・三角比 ・三角形への応用	・三角比 ・相互関係 ・三角比の拡張 ・正弦定理・余弦定理 ・面積・空間図形への応用		日々課題 週末課題 考査
11	データの分析		・データの分析	・代表値 ・四分位数 ・分散・標準偏差 ・変量間の関係 ・仮説検定	16	学習到達度確認問題
	課題研究					日々課題 週末課題 考査

計96時間 (55分授業)

教科	数学	科目	数学Ⅱ(1年)・理数数学Ⅰ	単位数	1単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅱ』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅱ+B』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+BC』						

1 学習目標

「式と証明」「複素数と方程式」の2単元に取り組む中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

「式と証明」では、多項式の除法や、分数式の四則演算について、また等式・不等式の証明の方法・表現学び、またそれらの知識を用いて、実際に証明を記述することができるようにする。

「複素数と方程式」では、数の範囲を複素数全体まで拡張し、複素数の四則演算ができるようにする。また、3次以上の高次方程式解くことができるようにする。

2 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得を目指します。
- ③学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題の提出 ・ 週末課題の提出 ・ 自主的に取り組んだ問題の提出 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

日々課題
週末課題

6 学習アドバイス

- ①数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。
- ②授業中に理解できないところは、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ③応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会で内容の定着を徹底します。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
12	式と証明		・式の計算 ・等式・不等式の証明	・3次式の展開・因数分解 ・二項定理 ・多項式の除法・分数式 ・恒等式 ・等式・不等式の証明	16	学習到達度確認問題 日々課題 週末課題 考査
2	【後期期末考査】					
3	複素数と方程式		・複素数と2次関数の解 ・高次方程式	・複素数・解と係数の関係 ・剰余の定理・因数分解 ・高次方程式	16	学習到達度確認問題 日々課題 週末課題 考査

計 32 時間 (55 分授業)

教科	数学 ・理数	科目	数学A・理数数学I	単位数	2単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学A』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学I+A』 啓林館『Focus Gold Smart 数学I+A』						

1 学習目標

「集合と命題」「場合の数と確率」「図形の性質」の3単元に取り組む中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

「集合と命題」では、数学で用いられる論理の記号・表現・証明について理解し、今後の学習の中で利用できるようにする。

「場合の数と確率」では、事象を数学的にとらえ、解釈・処理・表現できるようにする。

「図形の性質」では、図形の性質にの基本的な原則・法則を理解できるようにする。

2 指導の重点

①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。

②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得を目指します。

③学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題の提出 ・ 週末課題の提出 ・ 自主的に取り組んだ問題の提出 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

日々課題
週末課題

6 学習アドバイス

- ①数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。
- ②授業中に理解できないところは、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ③応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会で内容の定着を徹底します。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	集合と命題		・集合と命題	・集合・命題と条件 ・命題と証明	12	学習到達度確認問題
5	場合の数 【GW課題考査】		・場合の数	・順列 ・組み合わせ	14	日々課題 週末課題 考査
6	【前期中間考査】 確率		・確率	・基本性質 ・独立な試行 ・条件付き確率 ・期待値	18	学習到達度確認問題 日々課題 週末課題 考査
7						
8						
9						
10	図形の性質 【前期期末考査】		・平面図形	・角の二等分線と辺の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円 ・作図	20	学習到達度確認問題 日々課題 週末課題 考査
11						
12						
1						
2	【後期中間考査】		・空間図形	・直線と平面 ・多面体		

計 64 時間 (55 分授業)

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	東京書籍『新編物理基礎』						
副教材等	数研出版『新課程リードLight ノート物理基礎』						

1 学習目標

物体の運動とさまざまなエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って実験を行うことなどを通して、物体の運動とエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ① 身の回りの現象を物理的にとらえ、正しく考察し、説明できるようにする。
- ② 問題演習を通して物理法則の扱い方を身につける。
- ③ 実験を通して現象をどのようにとらえ、解析していけばよいのかを身につける。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとしている。	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などを通して、現象を科学的に探究する方法を身に付けようとしている。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらの事物・現象に対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週の週末課題があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

6 学習アドバイス

物理は数少ない基本法則から、身の回りのさまざまな現象を説明し、また予測することができるパワフルな学問です。基本法則は数学を使った公式で表されているため、公式に文字や数値をあてはめればOK!という考えに陥りやすいと思います。しかし、重要なことはそういったことではなく、「公式を自分の言葉で説明できること」です。近年の入試問題もただ単に計算をするだけでなく「現象を正しく説明できること」が求められます。「答えが出ればOK!」ではなく「物理の考え方をより深く理解する」という姿勢で学習しましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法	
4	物体の運動とエネルギー		運動の表し方	等速直線運動 加速度	6	学習到達度確認問題 提出物の確認	
5				落下運動	5	学習到達度確認問題 前期中間考査 提出物の確認	
6			さまざまな力とそのはたらき	力のつりあい	6	学習到達度確認問題 提出物の確認	
7				運動の法則	6	学習到達度確認問題 提出物の確認	
9			力学的エネルギー	仕事 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	6	学習到達度確認問題 提出物の確認	
10		熱		熱とエネルギー	熱と温度 熱の利用	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
11		波		波の性質	波と媒質の運動	6	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期中間考査
12					波の重ね合わせ	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
1				音	音の性質 共振・共鳴	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
2	電気 物理学と 社会		電気抵抗	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	6	学習到達度確認問題 後期期末考査 提出物の確認	
3			磁気と交流	電流と磁場 交流と電磁波 エネルギー資源	5	学習到達度確認問題 提出物の確認	

計64時間 (55分授業)

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年(科)	1学年
使用教科書	・数研出版『新編 生物基礎』						
副教材等	・浜島書店『ニューステージ二訂版生物図表』 ・数研出版『新課程版リードα生物基礎』						

1 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ①日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けようとしている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験での表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

週末課題、長期休業課題、実験レポート、授業ノートやプリント、ワークシートの提出を課します。（別途指示します。）

6 学習アドバイス

①授業内での完全理解を目指そう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分りにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習中心。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組むこと。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていくこと。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜学習活動を改善しながら実力向上に努めましょう。

③生物の授業では

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第1章生物の特徴 第1節生物の多様性と共通性 第2節エネルギーと代謝		生物の多様性と その由来 進化と系統 細胞内構造 生体物質	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。	5	学習到達度確認 問題 提出物の確認
5	第3節呼吸と光合成 第2章遺伝子とのはたらき 第1節遺伝情報とDNA		ATP 呼吸と燃焼の違い 光合成のしくみ 酵素のはたらき DNAの構造	・光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。 ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解する。	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認
6	第2節遺伝情報の複製と分配 (前期中間考査)		細胞周期 DNA量の変化	・塩基の相補性とDNAの複製を理解する。	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認 前期中間考査
7	第3節遺伝情報の発現		タンパク質合成	・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列を理解する。	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認
8	第3節遺伝情報の発現		細胞の分化	・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列を理解する。	4	学習到達度確認 問題 提出物の確認
9	(前期期末考査) 第3章ヒトの体内環境の維持 第1節体内での情報伝達と調節		神経系とホルモン系	・体内での情報の伝達と体の調節について理解する。	6	学習到達度確認 問題 前期期末考査 提出物の確認

10	第2節体内環境の維持のしくみ		自律神経系 血糖濃度の調節	・体内環境の維持とホルモン、自律神経について理解する。	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認
11	第3節免疫のはたらき		自然免疫 適応免疫 免疫と健康	・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認
12	(後期中間考査) 第4章生物の多様性と生態系 第1節植生と遷移		階層構造 光合成速度	・いろいろな植生とその特徴について理解する。	4	学習到達度確認 問題 後期中間考査 提出物の確認
1	第1節植生と遷移		一次遷移と二次遷移	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。	5	学習到達度確認 問題 提出物の確認
2	第2節植生の分布とバイオーム 第3節生態系と生物の多様性 (後期期末考査)		世界のバイオーム 日本のバイオーム	・バイオームの分布と年降水量と年平均気温の関係について理解する。 ・生態系において種多様性が維持されていることを理解する。	6	学習到達度確認 問題 後期期末考査 提出物の確認
3	第4節生態系のバランスと保全		栄養段階 物質収支 外来生物	・生態系のバランスと人為的攪乱について理解する。	4	学習到達度確認 問題 提出物の確認

計64 時間 (55分授業)

教科 (科目)	体育	単位数(時数)	2 単位	学年 (科)	1 学年 (専門系)
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	なし				

1. 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

- ①各種の運動をとおして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ②運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

4. 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）や定期考査、技能テスト等を上記の観点から総合的に評価します。 前期、後期ごとに各観点 「A：十分満足できる」、 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」 で評価します。		

5. 課題・提出物等

適宜指示があります。

6. 学習アドバイス

- ①自分自身の健康や体力に関心を持つ。
- ②各領域の運動特性を理解しよう。
- ③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。

7. 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	体づくり運動	8	体ほぐしの運動 体力を高める運動 学校体操 スポーツテスト	・各種体ほぐしの運動 ・整列や列の増減の方法 ・学校体操 ・体力向上を目指したサーキットトレーニング ・スポーツテストの8項目測定	a b c	授業の取組
5	陸上競技	8	長距離走	・持久走 ・大学往復走（5km）	a b c	記録測定
6	陸上競技	10	短距離走・リレー	・100mの計測 ・リレー，バトンパス	a b c	記録測定
7	および器械運動		マット運動	・倒立前転，側転		演技発表
8	体育理論	6	運動・スポーツの文化的特徴	・人間にとって動くとは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・スポーツ文化の楽しみ方 ・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ倫理	a b c	定期考査
9	武道	9	柔道	・受け身や体さばき、崩し、投げ技の習得	a b c	技能テスト
10						
11	球技	9	バレーボール（ネット型）	・基本技能の習得（オーバーパス，アンダーパス） ・簡易ゲーム	a b c	技能テスト
12						
1	球技	9	バスケットボール（ゴール型）	・基本技能の習得（ドリブル，パス，シュート） ・簡易ゲーム	a b c	技能テスト
2						
3	球技	5	バドミントン（ネット型）	・基本技能の習得（ハイクリア，ヘアピン，ドライブ等） ・簡易ゲーム	a b c	

計64時間（55分授業）

教科 (科目)	保健	単位数(時数)	1 単位	学年 (科)	1 学年 (専門系)
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『図説現代高等保健』				

1. 学習目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

- ①健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるという「ヘルスプロモーション」の考え方を学ぶ。
- ②ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深める。

3. 評価の観点の趣旨

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

4. 評価規準と評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	「3. 評価の観点の趣旨」と同様		
評価方法	<p>上記の観点から、授業の取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、定期考査、レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>前期、後期ごとに各観点 「A：十分満足できる」、 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」で評価します。</p>		

5. 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究レポート ・課題研究発表の要約や意見をまとめた発表の記録 	その他、適宜指示があります。
--	----------------

6. 学習アドバイス

①自分自身の生活習慣を振り返り、身近な課題として現代の健康問題を捉えよう。
②個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどの重要性を理解しよう。

7. 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	現代社会と健康	10	健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復	・健康の考え方と成り立ち	a b c	授業の様子と定期考査
5				・私たちの健康のすがた		
6				・健康に関する意志決定・行動選択		
7				・健康に関する環境づくり		
				・がんの原因と予防		
				・がんの治療と回復		
				・運動と健康		
				・休養・睡眠と健康		

		3	精神疾患の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 	a b c	
	安全な社会生活	1	応急手当	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法 (PUSHプロジェクト) 	a b c	
	現代社会と健康	1	課題研究 オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 現代の感染症とその予防 生活習慣病などの予防と回復 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防と回復 食事と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 現代の感染症とその予防 性感染症・エイズとその予防 上記7分野から1つを選択し、夏休み中に研究レポートを作成する。また、1班数名で班分けも行う。	a b c	レポート
9		4	課題研究発表準備	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに発表準備を行う。 	a b c	
10 11 12		7	課題研究発表	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに発表する 	a b c	発表の様子 提出物
1 2	安全な社会生活	3	安全な社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 	a b c	
		2	応急手当	<ul style="list-style-type: none"> 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 	a b c	
3		1	1年間の振り返り・復習	1年間の総復習		

計32時間（55分授業）

教科	芸術	科目	音楽I	単位数	2単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	教育芸術社『高校生の音楽I』						
副教材等	教育芸術社『音楽の鑑賞教材と基礎学習』、『キミウタ（混声合唱曲集）』						

1 学習目標

音楽の良さ、楽しさを感じ、表現法を学び、感性を働かせて他者との協働を学び、音楽文化についての理解を深める態度を育てる。

2 指導の重点

歌唱・器楽・創作・鑑賞を軸に表現法を高めることを目指します。更に音楽の文化的歴史的背景の関わりを学び、理解する感性を育てます。その他に生涯に渡る音楽文化についての関わりを構築して行きます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想・音楽の構造や文化的、歴史的背景の関わりや音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かす表現ができるようにしている。 	<p>音楽を評価しながら良さや美しさを味わいながら聴いたり、表現を体現しようとしている。</p>	<p>主体的、協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各時間に実技指導中での取り組みを評価します。 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技 ・鑑賞についての記述から評価します。 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・練習への取り組みを記述した提出物を総合的に評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

授業内で全て課題に取り組み記録する。

センテンス終了時に記録ノート・鑑賞の記録を提出する。

6 学習アドバイス

毎時間の取り組みをして鑑賞についても記録していきます。授業内で完結して行きます。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	正しい発声を学ぶ 各自の選択を決める	2	授業内での実技指導 レポート提出

5	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	合唱曲パート分け 合奏曲楽器分け 音楽史からバロック	3	授業内での実 技指導 レポート提出
6	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	外国語歌曲 (伊、独) 個人選択練習 音楽史から古典派	4	授業内での実 技指導 レポート提出
7	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	混声四部合唱 楽曲についての途中発表 ミュージカル鑑賞	4	授業内での実 技指導 レポート提出
8	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会に向けて練習、 制作	1	授業内での実 技指導 レポート提出
9	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会に向けて練習と ステージング 音楽史のまとめ	4	授業内での実 技指導 レポート提出
10	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会の制作発表	4	授業内での実 技指導 レポート提出
11	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	合唱、独唱、オルゴール制作 世界の民族音楽 I	4	授業内での実 技指導 レポート提出
12	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	祝実曲 ラテン音楽合奏 ドキュメンタリー鑑賞	3	授業内での実 技指導 レポート提出
1	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	混声三部合唱 個人選択曲 世界の民族音楽 2	3	授業内での実 技指導 レポート提出
2	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	ミニコンサートに向けて 総仕上げ オペラ、バレエ作品	4	授業内での実 技指導 レポート提出
3	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	各自音楽テーマを決めて、 リサーチして発表する	4	授業内での実 技指導 レポート提出

計 64 時間 (55 分授業)

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術1』						
副教材等	なし						

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質、能力を育成することを目指す。美術作品などに関する鑑賞とともに、美術の働きや美術文化に関して理解を深める。生涯にわたり美術を愛好する心情や豊かな感性を育む。

2 指導の重点

- ① 本校の位置する美しい自然や地域の文化財、文化施設を活用しながら美術の幅広い創作活動を行う。
- ② 絵画、彫刻、デザイン、建築、映像メディア表現を学習する。また、美術史を学び、理解を深める。
- ③ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、創造的に表すことを目指す。
- ④ 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることを目指す。
- ⑤ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫、表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の観点を踏まえ、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、作品を通して心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、見方や感じ方を深め、表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。課題の内容、提出状況、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。
内容のまとめごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

5 課題・提出物等

- ・課題作品を提出する。
- ・授業内での課題の取り組みを記録する。
- ・鑑賞の記録を提出する。

6 学習アドバイス

美術を通して取り組む表現と鑑賞の創造活動は、人間らしい感動や生き方を認識していくことにつながります。寛容と理解力を持って、広く芸術・文化を学び、優れた感性を身につけていくことが大切です。

7 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	オリエンテーション	2	「美術とは何か」	高校生の美術の学習イメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	c	レポート 確認
	見る 感じ取る 考える 表す	2	「身近な物を描く」	身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。	a、b、 c	作品確認
5	人物画、静物画、風景画他の表現方法	2	「視点と表し方」 絵画の魅力 を考える	複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞する。	b、c	取り組み
	「自己や他者の内面に触れて」	4	「人物を描く」	自己の内面を見つめ、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉える。生命観の感じられる生き生きとした描写を目指す。	a、b、 c	作品確認
6 7	静物画の魅力 様々な技法	16	「静物画」 作品制作 色彩学	牛頭骨、植物、器物、果物、楽器、布他、モチーフを構成し、静物画における主題や構図について理解を促す。 観察の幅を広げ美の所在発見への認識を深める。 多様な表現方法の工夫をする。 水彩画、洋画、日本画、アクリル画等の絵の具の技法を学ぶ。 ○グレース技法 ○ウェット・イン・ウェット技法 ○ウェット・オーバー・ドライ技法	a、b、 c	作品提出 確認
8	「世界の至宝」探求	2	世界の美術館 博物館の鑑賞	ルーブル美術館、オルセー美術館他をBDで作品鑑賞する。世界の芸術文化を探求し理解を深める。	c	発表の様子
9	「作家と作品」 研究	6	世界の巨匠 達の作品鑑賞	作家と作品、その時代背景を考察する。美術の働きや芸術の動向などグループで意見をまとめ全体ディスカッションを試みる。 民族、国家、宗教の壁を越え、互いの芸術、文化を尊重する精神を育成する。	c	発表の様子

10 11	世界の芸術文化と歴史	16	世界遺産の探求	世界の芸術文化を学び日本、諸外国の文化、伝統を考察し豊かな心を養い創作する。 世界の美術史年表を学び理解を深める。 多分野にわたり様々な芸術を総合的に捉える。 総合芸術の社会での役割、国際間の文化交流を理解する。	a、b、 c	作品提出 確認
12	日本の美術の特質	4	日本の美術 日本の美学	日本の美術、彫刻、建築の表現の特質を探求する。美術文化の継承と創造について考える。 日本の美術の独自の屏風や掛け軸、絵巻などの良さや美しさ、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式を捉え美意識や自然観、制作の知恵などを理解する。	b、c	理解度
1	デザインの世界の広がり デザインと人間工学	4	「色彩、美の秩序、文字の基本」	環境問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想、表現するために、色彩、造形の秩序、構成の要素、構図、文字の基本などについて学ぶ。 テーマに沿って問題提起→企画→演出を促す。比率（黄金比、フィボナッチの数列、ペルの数列など）の利用を理解する。 人間の知性と感性に響き合うウィットに富んだ制作を目指す。	a、c	課題確認
2	映像メディア表現	4	「映像に包まれて」	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉える。	c	取り組み
3	オリエンテーション	2	これからの私と美術	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるのか考える。	c	発表の様子

計64時間（55分授業）

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2単位	学年 (科)	1 学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書		教育図書『書 I』					
副教材等		なし					

1 学習目標

- (1) 伝統芸術としての書文化の意味や価値を考え、書の良さや美しさを感じて表現の工夫をしていくようにする。
- (2) 書の特徴を理解させ、基本的な技能、知識を身につけ、芸術としての書作品を制作できるようにする。
- (3) 古典や現代書の作品を鑑賞し、書に興味を持ち愛好する心を養うようにする。

2 指導の重点

- (1) 古典の書風や変遷を学び、色々な特徴があることを理解させ、書の表現の方法や形式とその多様性を考えるようにする。
- (2) 古典の用筆、運筆、字形や全体の構成を見て、技術や感覚的なものを学び、応用力や想像力を身につけ、表現できるようにする。
- (3) 古典の書と現代書を比較し、それぞれの良さを理解させ、鑑賞力を身につけるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書写教育と芸術書道の違いを理解し、芸術としての書の知識や効果的な表現をする為の基本的な技能を身につけるようにしている。	書の古典の良さや美しさを感じ、臨書という基本練習から、用筆、運筆、字形を学び身につけて、自己表現をする為の構想や表現を工夫している。	書が他の芸術のようにグローバルな芸術となれるように、社会との関わりを考え、積極的に書の表現や鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・制作作品の古典の特徴の理解度と内容 で評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作作品の表現や紙面構成の達成度とその内容 で評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題の観察や集中して取り組んでいるか ・制作作品の内容 で評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週課題作品の提出
- ・篆刻の場合は完成した段階で印箋紙に押印して提出

6 学習アドバイス

古典の臨書から書の表現や技術的なことを学び、作品の鑑賞力を身につけるようにする。また、基本的な練習だけで終わらず学んだことと自分の想像力、創作力と絡み合わせて、古典に立脚した個性的な作品を制作していくことが大事である。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	書写教育から芸術書道へ	(B鑑賞)	・九成宮禮泉銘 ・孔子廟堂碑 ・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序	・年間学習計画と文房四宝 ・芸術書道への取り組み	1	授業の取組
	漢字・楷書の書	(共通事項)	・牛欄造像記 ・鄭文公下碑	・古典の臨書でその特徴を捉え、用筆、運筆の技法を習得する。又、字形や線質の違いを捉え、観察力を身につける	8	制作作品の内容と完成度
	磨崖と龍門石窟の書	(表現)			4	制作作品の内容と完成度
6	楷書の倣書と創作	(A表現)	2字句の倣書と創作作品	・これまで学習してきた古典の特徴を活かし、表現を考え工夫して制作する	4	制作作品の内容と完成度 授業の取組
	漢字・行書	(共通事項)	蘭亭序	・蘭亭序とその筆者について ・楷書と行書を比較し違いを理解し、用筆、運筆の技法を習得する	8	作品内容 授業の取組
7	漢字仮名交じりの書	(表現)	自選句、又は自作の詩 漢字2字句創作	・詩文の文字の布置や漢字とひらがな字形を考えて表現する	4	作品内容 授業の取組
	漢字の創作					
9	漢字・隸書	(共通事項)	曹全碑	・隸書の変遷と字形の変化を理解する ・基本点画と特徴を捉え、用筆法を習得する	6	作品内容 授業の取組
10	篆刻	(共通事項)	姓名印の制作	・印の種類を知り篆刻に必要な用具と使用方法を理解する ・文字配置を考え姓名印を刻す	8	制作作品の内容 授業の取組
11	仮名の書	(共通事項)	仮名の基本 蓬萊切 高野切第三種	・仮名の成立について ・仮名の基本的知識を理解する ・古筆の雰囲気や鑑賞し用筆や運筆に集中し仮名独特の連綿の美しさを習得する	8	作品内容 授業の取組
12						
1	漢字・行書	(B鑑賞)	平安の三筆の書	・日本人の書、特に平安初期の作品の鑑賞	1	授業の取組
2	漢字・行書	(表現)	風信帖	・筆者について ・字形、線質の特徴を捉え、用筆、運筆の技法を習得する	8	制作作品の内容 授業の取組
3	天平写経	(表現)	隅寺心経	・心経の字数、行数、名前の入れ方を理解し表現する	4	授業の集中度 作品内容

計64時間 (55分授業)

教科	情報	科目	情報 I	単位数	2単位	学年	1 学年
使用教科書	実教出版 「最新情報 I」						
副教材等	実教出版 「最新情報 I 学習ノート」						

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を学び、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 指導の重点

- 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得します。
- 情報社会と人との関わりについて理解を深め、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養います。
- 学んだ情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的かつ積極的に関わる態度を養います。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識を理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し自ら評価し改善しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識を理解し、技能を身に付け、情報化社会の特質及びその社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・実習における実技課題の内容及び提出状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・プレゼンテーションなどの実習における発表や相互評価などの取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・実習における実技課題の内容及び提出状況 ・授業内での取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

・文書作成、プレゼンテーション実習、プログラム作品の作成、データの分析など、単元ごとに出される実習・レポート課題や作品を提出する。

6 学習アドバイス

- ①授業内の実習の時間を大切に、レポートや課題をしっかりと提出しよう。
 ②機器やアプリケーションの操作などで困った場合は、積極的に質問しよう。
 ③情報の理論の理解と実技の実習をバランスよく行おう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 情報社会と私たち			ガイダンス (タイピングと文字入力)	1	タイピングソフト
	1節 情報社会			3	レポート ワークシート	
5	2節 情報社会の 法規と権利					・情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する
	3節 情報技術が 築く新しい社会			・知的財産権について理解する ・文書作成ソフトウェアを利用して文書を作成する ・個人情報の保護と管理について理解する		
6	第2章 メディアとデザイン			・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する	5	ワークシート
7	1節 メディアと コミュニケーション					
	2節 情報デザイン	7	ワークシート プレゼンテーション			
3節 情報デザイン の実践	・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する ・プレゼンテーション実習を通して効果的な情報発信について学ぶ					
8	第3章 システムとデジタル化			・アナログとデジタルの違いについて理解する	4	レポート ワークシート
9	1節 情報システムの 構成					
	2節 情報のデジ タル化	6	プレゼンテーション レポート			
10	第4章 ネットワークとセキュリティ					・情報通信ネットワークの仕組みについて理解する
		1節 情報通信 ネットワーク	2節 情報セキュリティ			・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する
11						
12	第5章 問題解決とその方法			・問題解決の手段について理解する	4	レポート
1	1節 問題解決					
	2節 データの活用	6	プレゼンテーション ワークシート レポート			
3節 モデル化	Python			・データ分析の手法について理解する		
4節 シミュレーション		・問題解決のためにシミュレーションを活用する				

2	第6章 アルゴリズムとプログラミング			<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する ・変数や関数を使用したプログラムを作成する 	5	プログラム作品
3	1節 プログラミングの方法 2節 プログラミングの実践				3	レポート

計 64 時間 (55 分授業)

教科	外国語	科目	総合英語 I	単位数	4単位	学年	1学年
使用教科書	啓林館『ELEMENT English Communication I』						
副教材等	啓林館『ELEMENT English Communication I サブノート』 啓林館『ELEMENT English Communication I Workbook Advanced』 エミル出版『Focus on Listening Basic』 Z会『Reading Express Book 1』 文英堂『英単語 Stock3000』 文英堂『英単語 Stock3000 定着ノート Vol. 1, 2, 3』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域【A「読むこと」、B「書くこと」、C「聞くこと・話すこと」】の言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすること。
- ② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすること。
- ③ 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うこと。
- ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えること。
- ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションにおいてそれらを活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、聞いたり読んだり、話したり書いたりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、配慮しながら、主体的、自律的に、聞いたり読んだり、話したり書いたりしようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、次を基に評価します。 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 など	以上の観点を踏まえ、次を基に評価します。 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 など	以上の観点を踏まえ、次を基に評価します。 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 など

5 課題・提出物等

- ・毎週学習内容に関する小テストがあります。 ・日々の課題として語彙力の獲得にこととなります。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。 ・考查毎にパフォーマンステストを実施します。
- ・考查毎に振り返りシートを記入し、提出することとなります。

6 学習アドバイス

英語を読む力や聴く力は、その技能だけを練習するよりも、話したり書いたりする活動と合わせて取り組むことでさらに伸びます。学ぶ姿勢を常に忘れないでください。コツコツと努力を重ねながら、しっかりと英語の基礎力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1 Intercultural Relationships	A B C	・ Scidmore's Cherry Trees を読む ・ メールを書く	・ 短い物語を読み、概要を理解する ・ アメリカからの交換留学生に、自己紹介のメールを書く	1 0	・ 授業中の活動への取り組み状況 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 振り返りシート
5	Lesson 2 Love beyond Species	A B C	・ Christian the Lion を読む ・ レポートを書く	・ 短い物語を読み、概要を理解する ・ Christian the Lion のストーリー・レポートを書く	1 0	
6	Lesson 3 Contributing to Our Planet	A B C	・ Bye Bye Plastic を読む ・ メールを書く	・ 短い説明を読み、概要を理解する ・ 交換留学生をボランティアに誘うメールを書く	1 4	
	パフォーマンステスト	A B C	Lesson 1 - 3	音読	1	・ パフォーマンステスト ・ 振り返りシート
7	FR 1 Toward Sustainable Development Goals	A B C	・ スピーチを読む	・ 短いスピーチを読み、情報を事実と意見に整理する	1 0	・ 授業中の活動への取り組み状況 ・ 定期考査
8	Communication in Practice 1 Amusement Park Visit	A B C	・ パンフレットを読む	・ アミューズメントパークのパンフレットを読んで、必要な情報を読み取る	1	・ 小テスト ・ 振り返りシート
9	パフォーマンステスト	A B C	SDGs	リテリング	2	・ パフォーマンステスト ・ 振り返りシート
	Lesson 4 Messages for World Peace	A B C	・ Twice Bombed, Twice Survived を読む ・ 意見を書く	・ 短い説明を読み、登場人物の心情を理解する ・ 平和について自分の意見を書く	1 4	・ 授業中の活動への取り組み状況 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 振り返りシート
10	Lesson 5 Respecting Each Other	A B C	・ Nobody's Perfect を読む ・ メールを書く	・ 短い物語を読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する ・ 困難な状況にある友人を元気づけるメールを書く	1 4	
11	Lesson 6 Language and Culture	A B C	・ The Power of Words を読む ・ 説明文を書く	・ 短い説明を読み、概要を理解する ・ 日本文化が楽しめる場所について説明する文章を書く	1 4	
	パフォーマンステスト	A B C	Lesson 4 - 6	AREA 型スピーチ、質疑応答	2	・ パフォーマンステスト ・ 振り返りシート

12	FR2 Pictures Without Shadows	A B C	・エッセイを読む	・身近な事柄についてのエッセイを読み、概要を理解する	14	・授業中の活動への取り組み状況 ・定期考査 ・小テスト ・振り返りシート
	Communication in Practice 2 Taking part in International Volunteer Work		・お知らせを読む	・国際ボランティアへの申込みフォームに記入する		
1	Lesson 7 Technology and Discoveries	A B C	・Serendipity を読む ・自分の意見を書く	・短い説明を読んで、概要を理解する ・電子書籍より紙の書籍を好む理由を書く	9	
2 3	Lesson 8 Standing Up for Human Rights	A B C	・Playing the Enemy を読む ・時系列に沿って書く	・短い説明を読み、登場人物の心情を読み取る ・人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書く	9	
	パフォーマンステスト	A B C	全レッスン	1年間で学んだ中から、最も興味深かった内容を選び、自分で調べた内容も加えてプレゼンする。	4	・パフォーマンステスト ・振り返りシート

計 128 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計 (各単元で三つの領域を統合的に行う時間配当の合計)

領域ごとの 授業時数合計	A 「読むこと」 60 時間	B 「書くこと」 40 時間	C 「聞くこと・話すこと」 40 時間
-----------------	-------------------	-------------------	------------------------

教科	外国語	科目	ディベート・ディスカッション I	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	啓林館 『Vision Quest English Logic and Expression I Advanced』						
副教材等	啓林館 『Vision Quest 論理・表現 I Advanced WORKBOOK』 啓林館 『Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd Edition』 啓林館 『Vision Quest New English Grammar 47 for 3rd Edition・Ultimate 2nd』 啓林館 『Vision Quest New English Grammar 47 Workbook』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域【A「話すこと[やりとり]」、B「話すこと [発表]」、C「書くこと」】の言語活動を通して、外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指す。

- ① ある論題について、基本的な語句や文を用いて、賛成または反対の立場を取った上で、論理的に一貫性のある議論を展開すること。
- ② 発表やディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身につけている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える表現を理解し身につけている。	情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、伝えようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身につけている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える表現を理解し身につけている。	情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、伝えようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考査毎に振り返りシートを記入し、提出してもらいます。
- ・定期考査後の期間にパフォーマンステストを実施します。

6 学習アドバイス

文法の力をつけて、内容をしっかりと伝えられる英語を身につけましょう。間違いを恐れず、積極的に活動し、振り返りをしっかりと行い、知識の定着をはかりましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	L1 I want to introduce my friend.	A B C	紹介 文の種類	クラブ活動をクラスに紹介する	4	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
5	L2 How about joining our group?	A B C	学校生活 文型と動詞	文化祭についてパートナー話し合う	4	・小テスト ・振り返りシート 等
6	L3 I'm planning a day trip this weekend.	A B C	旅行・観光 時制	旅行の経験をクラスに話す	4	
	パフォーマンステスト	A B C		80語程度の自由英作文	1	・パフォーマンステスト
7	L4 Have you ever tried it before?	A B C	趣味・関心 完了形	スポーツや音楽の経験をパートナーに伝える	5	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
8	L5 What do you want to do after high school?	A B C	将来・進路 助動詞	パートナーに将来の夢を語る	5	・小テスト ・振り返りシート 等
9	パフォーマンステスト	A B C		AREA型スピーチ原稿	2	・パフォーマンステスト
	L6 Did you hear about the new shop?	A B C	日常生活 受動態	買い物について質問したり、答えたりする	5	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
10	L7 I'm happy to have you with us.	A B C	交流・交際 不定詞	贈り物の詳細をパートナーに話す	5	・小テスト ・振り返りシート 等
11	L8 What sport do you like playing?	A B C	スポーツ・健康 動名詞	スポーツをすることの利点について発表する	5	
	パフォーマンステスト	A B C		AREA型スピーチ原稿	2	・パフォーマンステスト
12	L9 Digital media has come a long way.	A B C	メディア・コミュニケーション 分詞	自分自身や性格について発表する	5	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
1	L10 That's why I decided to go back.	A B C	文化・異文化理解 関係詞	日本の文化や日本人たちについて発表する	5	・小テスト ・振り返りシート 等
2	L11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?	A B C	国際問題 比較	国際問題について自分の考えを示す	5	
3	L12 If I were you, I'd see it as a positive.	A B C	社会問題 仮定法	日本の社会問題についてクラスに自分の意見を示す	5	
	パフォーマンステスト	A B C		Presentation原稿	2	・パフォーマンステスト

計 64 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計 (各単元で三つの領域を統合的に行う時間配当の合計)

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと [やりとり]」 25 時間	B 「話すこと [発表]」 25 時間	C 「書くこと」 20 時間
-----------------	--------------------------	------------------------	-------------------